

2014 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	英語英文学科 科 目
-----------	------------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

今回の結果は、すべての項目に関して、昨年を下回ったという点では残念であるが、9 項目中 4 項目が全学の平均を超えており、ほぼ全学平均的な結果が出ている。

個別の項目を見てみると、①「授業内容が理解できた」が 4.13 (4.10=全学)、⑤「教員の話し方は聞き取りやすい」が 4.10 (4.08=全学)、⑦「授業内容はシラバスに合っている」が 4.24 (4.21=全学) と平均をやや上回っている。

しかし、③「知的好奇心が刺激されたか」が 3.96 (4.02=全学)、⑨「授業レベル」が 3.51 (3.56=全学) と低い。授業レベルの理想値については一概に判断できないが、レベルが低めのため、授業は理解できるが、知的な刺激は少ないと感じる学生もいるだろう。どの学生も知的好奇心をもって授業に臨めるように、内容にメリハリをつける必要があると考える。

④「授業外学習」が 0.70 (0.65=全学) と、全学を上回るものの、多くの科目で授業外学習を義務づけていることを考慮すると、早急に改善すべき点である。予習と復習は高い英語運用能力には欠かすことのできないものであることを、よりしっかりと指導する必要があるだろう。

また、DWCLA10 においては思考力や分析力は高比率で選択されているが、コミュニケーション力 24% (19.8%=全学) やプレゼンテーション力 18.9% (13.8%=全学) については、語学系科目を多く抱えている割には低いと言わざるを得ない。今後、これらの能力をいかに効果的に習得させるかという議論も学科内で必要となると思われる。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育・研究推進センター